

「日々の理科」(第 2296 号) 2020, 10, 25

「晩秋の上高地紀行(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

先日両親が、3泊4日で上高地に滞在した。両親は高齢なので、これが最後の上高地旅行になりそうなので、私も現地地で合流することにした。残念ながら、さまざまな都合で、私は日帰りだった。



前回、私が上高地に行ったのは、5年前の5月だった。最後の区間は自転車で行った。まだ新緑の時期にもなっておらず、穂高連峰の残雪が美しかった。私は秋の上高地には行ったことがなかった。



日帰りなので、未明に出発した。途中の国道の温度表示は、実に氷点下1℃。そのかわり空はよく晴れている。これは、晩秋の穂高連峰を見られそうだ。



今回も軽自動車に、折り畳み式の電動アシスト自転車を積んでいった。現在上高地の県道は、一般車両は通年で通行禁止だが、自転車は規制外なのだ。上高地の入口の「釜トンネル」の近くの旧道に車を停めて、準備した。この道はかつて高山方面へ抜ける幹線だったが、今は廃道同然で駐車規制もない。安全な駐車スペースが何カ所もあるので、そこに停めることにした。



まずは上高地の入口の「釜トンネル(恐怖の釜トン)」を抜けた。5年前は釜トンネルをぬけると、狭い道続きだった。今はもう一つ「上高地トンネル」が完成し、ずいぶん短絡された。歩いて上高地に入る人も結構いるので、歩道もついている。



トンネル開通前の道が残っていれば、そっちを通ろうと思ったが、完全に通行止め。自然に戻っていた。